nagomi

札　幌　組　報

なごみ

2023年03月31日
第61号
浄土真宗本願寺派北海道教区
札幌組実践運動委員会
事務局
札幌組 HP
https://www.onishi.or.jp

親鸞聖人御誕生850年立教開宗800年のご縁とともに

札幌組 組長
石堂 了正（眞願寺）

平素より札幌組の運営にご協力を頂き、心より御礼申し上げます。また御同朋の社会を目指す運動（実践運動）へのご理解とご参加にも有り難く存じます。

ここ3年間はコロナ禍の中で、何事も計画通りは出来ませんでしたが、リモートを用いて会議や研修会を行うことが出来たことは、本当に有意義であったと思います。

できうれば膝を交えた議論や、一堂に集う研修会が望ましいのですが、リモートという新たな方法により、スピーディな会議の進行や、多くの方に参加し聴講いただける研修会も出来るようになりました。今後も内容によっては活用していきたいと思います。

さて、いよいよ今年3月29日より「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年」の慶讃法要が本山で始まりました。北海道教区でもイベントとご法要が行われますが、札幌組と致しましても、今年7月22日にイベント、11月22日に慶讃法要を札幌別院で行うことで、ご提案させていただきます。

執行部2期目の最終年度として、また組長としても最後の事業として、微力ではありますが誠心誠意つとめさせていただきたいと思います。この尊い喜びのご法縁を、後世に受け継ぐ大切な機縁となりますよう、そして、新たなお念仏の花ひらく土台となればと願うばかりです。

どうか組内全てのご寺院、ご住職、坊守様、寺族の皆様、そしてご門徒の皆さんにご協力と、ご参詣のほど、宜しくお願いします。

先のことは見通せませんが、今後はウィズコロナの時代へと変換されていくと思われます。各ご寺院でも、何かと工夫されながら法務に専念され、伝道教化の活動にも取り組まれると思います。是非その活力を組にも向けていただき、一寺院ではでき得ないことや、一つの事業に一致協力により、実り大きな成果が生まれるよう、力を合わせて行きたいと思います。そして、交流と親睦を深めつつ、北海道中心都市の札幌組として、諸課題にも取り組み、心豊かな社会の実現を目指してまいります。皆様のご理解とご協力、そしてご尽力いただけますよう、重ねてお願い申し上げます。合掌

北海道教区仏教壮年会研修大会

札幌組仏教壮年会連盟の活動はここ数年のコロナ渦により以前のように研修会や懇親会等会員相互が顔を合わせる機会がほぼ無くなりました。その中、令和４年７月17日に北海道教区仏教壮年会研修大会が教区仏教壮年会連盟結成40周年記念大会と第１連区仏教壮年連盟研修会を併修し札幌別院を会場に開催され、ご講師には北豊教区小倉組永明寺住職、松崎智海師のをお招きして「次の世代にどうやって伝えるか」をテーマに聴聞を致しました。その後グループ討議に移り講義を終了しました。札幌組仏壮連盟からは37名の参加があり、組仏壮連盟として参加者へ参加費を全額助成することで事業の一つと致しました。コロナ禍の中でも何か出来ることはないか思案していたところ、仏壮会結成促進の一助となればとの思いから組内の仏壮会から原稿提供のご協力のもと一昨年度末に広報誌「札壮便り」を創刊、昨年度末には第２号を発行する運びとなりました。

総代会代表者会議・懇親会開催

令和４年７月18日（月）17時～20時まで、ホテルポールスター札幌にて、札幌組総代会 代表者会議並びに、懇親会を開催しました。コロナ禍によって２年間集まれない状況が続きましたが、ホテルの広い会議室にて顔を合わせる中で、皆さまと再び会議が出来たのは貴重なご縁でした。その後、部屋を移し懇親会を開催しました。ビンゴ大会は静かに盛り上がり、役員さんと慰労の場を共有させていただきました。

連研部・社会部合同研修会開催

連研部と社会部の合同研修会を令和４年７月２５日、覚王寺とZoomのハイブリッド形式で開催。ご講師は米サンフランシスコ在住の浄土真宗本願寺派僧侶・宮木・リー・啓輔氏で、「多様性と真宗」という講題でお話しいただきました。参加者は覚王寺４名、Zoom ８名でした。

講演ではご自身の体験を通してLGBTQのことなどを語っていただき、昨今、社会においても多様性が求められる中、本当の意味での多様性とは何かを浄土真宗の教えを通じて考える大変貴重な機会となりました。また、その後の質疑応答でも、アメリカでの伝道活動のことなどを具体的な例を挙げながらお話しいただき、私たち自身の伝道活動を見つめ直す機会ともなりました。

総代会　総会・研修会開催

令和４年10月７日（金）15時～17時まで、本願寺札幌別院にて、札幌組総代会 総会並びに、研修会を開催しました。研修会講師には、仁木町 無量寿寺 ご住職 朝山 明彦 氏をお招きし、「ご縁をよろこび お念仏とともに生きる～門徒総代としての受け止め方～」を講題にお話しいただきました。総代として仏法のみ教えを心の拠り所としながら、お寺のご法座に参った時は「総代の背中」を見せていくことが大事と聞かせていただき、これからの歩みを再確認できる有意義な研修会でした。

「親鸞聖人のご生涯に学ぶ―歴史の中の親鸞聖人」

令和４年11月９日本願寺札幌別院（オンライン併催）を会場として、研修部主催により、札幌組研修会を開催しました。

講師には本願寺史料研究所上級研究員の岡村喜史先生を迎え、「親鸞聖人のご生涯に学ぶ―歴史の中の親鸞聖人」という講題のもと講演が行われた。会場とオンラインをあわせ多数の出席があり、参加者は大いに研鑽を深められました。

講演は親鸞聖人が専修念仏に至られた過程について、当時の時代的環境をもとに考えてみようという問いからはじまり、1「親鸞聖人の誕生とその時代」、2「天台僧としての親鸞聖人」、3「六角堂の参籠」、4「専修念仏に帰す」と進んでいきました。

札幌組研修会・新年会開催

令和５年２月３日、プレミアホテル中島公園札幌にて研修部主催「新制　御本典作法について」の研修会を開催しました。組内僧侶約 30 名参加のもと、北海道教区勤式練習所運営委員であり研修部部長の石田えり子氏より詳しくその唱え方を指導していただきました。これから自坊の法要などで依用できるように今後も研鑽を重ねていけたらと思います。

研修後は３年ぶりに札幌組新年会が催されました。事前に抗原検査キットの配布等の対策を講じたこともあり、多くのご参加をいただきました。ご参加の皆さまの雰囲気から、親睦の場を持つことができて良かったと感じております。

青少年部・社会部共催【研修会】

令和５年３月８日（水）１５時より札幌別院とＺＯＯＭのハイブリットにて、昨年開催した WEB セミナーに引き続き、熊本県水俣市より社会福祉法人光明童園理事長の堀　浄信氏を講師に迎え研修会を開催いたしました。

「子どもたちの笑顔のために～児童養護施設の現場から～」というテーマのもと、札幌別院とＺＯＯＭ合わせて３４名の参加をいただき、①子どもの貧困について、②児童養護施設について、③できること（取組と実践）の３点を中心にお話をいただきました。

講師は本山の全国児童養護施設連絡協議会会長など、数多くの役職につかれ、子どもたちの笑顔のために日々ご活躍されている方であり、その経験を踏まえ、参加者に映像や音楽などを交え、子どもの貧困や児童養護施設のことなどを切実に語っていただきました。本研修において児童養護施設の現状を知り、社会におけるつながり、「縁」の大切さをあらためて学ばせていただく貴重な機会となりました。

また、研修会翌日には、社会福祉法人麦の子会に講師の堀氏と共に見学をさせていただきました。麦の子会では、様々な心配を抱えている子ども達ばかりでなく、親や出産を控えている妊婦に対してもサポートが出来る様々な施設がありました。会では、横のつながりを大事にしながら、皆で成長しあうことを大切にしており、つながりの重要性を学ばせていただきました。

重点プロジェクト【東日本大震災の学び】

まず、震災及び原発事故以来積み上げてきた東日本大震災支援として、去る令和 5 年 2 月 25 日に相馬組 常福寺様 (原町) にて「東日本大震災十三回忌法要」に組内有志 7 名で出勤させていただきました。これは、2016(平成 28 年)10 月 3 日に本願寺札幌別院にてお勤めさせていただいた七回忌法要がご縁となり、相馬組様からお声がけをいただき実現したご縁であります。

当日の午前中に、現地学習会として今まで放射線量が高く、訪れることが出来なかった浪江町の「光明寺」さんに伺いました。光明寺さんは原発から 5km ほど離れておりますが、相馬組所属寺院の中で一番放射線量が高く、原発事故から 3 年半後にようやく帰還解除されたそうであります。

その後、除染作業を行い、いまでは報恩講や通常の法務をようやく勤められるようになったとご説明をいただきました。次に、同じく浪江町の「常福寺」さんに伺い詳細なご説明をいただきました。

昨年、本堂を専門的にお調べいただき、取り壊さずに修復が出来る事が確認され、現在、お寺の再建を目指し、御本尊や仏具、掛け軸類は全て京都で修復されているそうであります。また、庫裡や客殿は解体し、新築を目指し、来る令和 9 年が常福寺様の開基 200 年、そして東日本大震災十七回忌法要の当年となることから、そこを目標にしていると御住

職様が大変明るい表情で仰っていたのが大変印象的でありました。

次に、最も原発に近いお寺である双葉町の「光善寺」様を訪れました。光善寺様は昨年の 8 月 30 日にようやく帰還解除されましたが、既に修復は不可能と判断し、現在、寺基移転を目指し奔走されているとご説明をいただきました。山門や庫裡は崩れたまま瓦礫と化し、震災当初そのままの姿を目にし、参加した全員が驚愕したことでありました。また、原発事故当時の状況も詳細にご説明いただき、たまたま 9 割方空気の流れで放射線が太平洋に流れていったのでこれくらいの被害で済んだんですよと説明を受けたときには背中に冷たいものを感じたことでありました。

最後に、「東日本大震災・原子力災害伝承館」を訪れ、屋上から震災当時の状況を詳しくご説明をいただきました。海に向かい左側 (北側) が津波が襲った地域で未だ手を付けられないとのこと、また右側 (南側) を見渡すと、たくさんの重機が作業を行っており、こちらは汚染された土や、汚染された瓦礫を貯蔵する中間貯蔵施設になるとご説明をいただきました。福島に着いたときに、以前は汚染された土を詰めたフレコンバックが山積みにされておりましたが、それを一切見かけなかったのはそういうことかと合点がいきました。

駅や公的なものは新たに建設され、キレイな町並みが戻って来ているなと感じておりましたが、実際に現地を訪れ、被害を受けられたお寺様から詳細なご説明をいただく中で、正直、復興は何も進んでいないなと強く感じたことでありました。

札幌組　親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要準備委員会開催

札幌組の法要・イベント開催に向け札幌龍谷学園高等学校の生徒や教諭、組内若手僧侶とワークショップを行い、多くのアイデアを提案いただきましたので、是非、盛会にて法要・イベントが実現するように皆さまにご協力頂きながら進めて参ります。

災害対策委員会より

札幌組各ブロックに一台づつ、札幌組災害備蓄品として、発電機を設置いたしております。管理していただいている寺院は以下の通りです。災害にかかわらず、緊急の際はご連絡いただき活用していただければ幸いに存じます。

第１ブロック　松雲寺 様　TEL　01332-6-2041
第２ブロック　浄憲寺 様　TEL　011-711-4717
第３ブロック　瑞正寺 様　TEL　011-531-6776
第４ブロック　光圓寺 様　TEL　011-881-1571
第５ブロック　広大寺 様　TEL　011-881-4949

お知らせ

おくやみ　令和４年３月～令和５年３月にご往生

眞照寺　第三世住職

開導院釋哲朗　　松本　哲朗 様

令和５年１月 29 日ご往生　　行年 76 歳

生前は札幌組のご法義発展に大変なご協力を下さいました。ご尽力に感謝申し上げます。　合掌

住職継職法要のご報告

光圓寺　一瀬　守城 様　令和４年８月２８日
第四世住職継職奉告法要　厳修

法城寺　佐藤　恒見 様　令和４年９月１４日
第三世住職継職奉告法要　厳修

編集後記　組報なごみ「第 61 号」を発行いたしました。
少しずつ研修会、会議などが開催されるようになりました。今年度は、さらに活発な活動が行なわれ、本紙面が賑やかになる事を期待しております。
皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。